

環境未来型エコプラントを活用したエコキャピタルの創造と新たなエコライフスタイルづくりプロジェクト(概要)

～ 環境未来型エコライフスタイルが実現され環境価値観が深化・進化した社会をめざして～

平成23年9月京都市木津川市

現状と課題(提案の背景)

- ・現在、木津川市ではクリーンセンター(ごみ焼却場)の建設が喫緊の課題となっていますが、日常生活から排出される“ごみ”を資源として位置づけて、活用するという意識改革が求められている。
- ・クリーンセンターを環境未来型エコプラントとして整備し、超高齢化に対応した社会システムの重要な都市インフラとして活用することが有効である。
- ・関西文化学術研究都市の理念を実現する上で、3つのキャピタル(資源・拠点・環境首都)=エコキャピタルの創造が求められている。
- ・東日本大震災を教訓として、既存の電力供給が絶たれた場合の行政サービスの確保が都市のリスクマネジメントの観点からも重要となってきた。

○ごみ・ごみ焼却場に対する意識と位置づけの転換

これまで: NINBY

- ・きたないもの
- ・不要物
- ・人の嫌がるもの

これから: エコプラント

- ・都市から生まれた“新たな資源”、“熱エネルギー源”
- ・クリーンなエネルギー供給施設

○超高齢化社会における新たな社会ツールの必要性～(例示移動手段など～)

これまで

- ・マイカー移動
- ・家族の協力

これから

- ・マイカーでの困難となるため、移動手段の支援が必要
- ・高齢者世帯のごみ出し支援等が必要

○学研都市の理念の実現 ～ 知の創造都市～

- ・関西文化学術研究都市の理念でもある“知の創造都市”の実現にむけて、3つのキャピタル(CAPITAL)の創造の必要性。

1つめのキャピタル=“重要な資源(もと)”

自然環境(里山・生物多様性など)
歴史・文化
学研都市の研究開発の成果

2つめのキャピタル=“重要な拠点”

持続可能な環境都市の実現への貢献
教育・芸術・研究開発等の実践拠点

3つめのキャピタル=環境未来の“道都”

実践の成果を国内外へ発信し、
環境未来型のエコライフスタイルを
先導する首都

○災害時に強い、電力供給システムの必要性

- ・既存の電力供給が絶たれた場合の行政サービスの早期復旧
- ・自然エネルギーなど地域で生み出すことができるエネルギーの活用(地産地消型のエネルギー活用システムの構築)



環境未来型エコライフスタイルが
実現され環境価値観が深化・進化した社会

木津川市がめざす環境未来型社会の将来目標像



目指すべき環境未来都市を実現するためのプロジェクトの概要

●取組みのねらい等

【ねらい】

- ・災害に強い、地産地消型のエネルギーシステムの実現と新たな環境産業の創出
- ・3つのキャピタル=エコキャピタルの創造による環境未来型エコライフスタイルの実現と環境価値の深化・進化
- ・超高齢化社会に求められる新たな行政サービスや事業活動の創出

【エコスタイルを実現するための社会ツール】

- ・ごみエネルギーと自然エネルギーを活かしたハイブリッド型電力補完システム、次世代型充電ステーション、エコモビリティシステムなど

【実施主体】

- ・木関連企業・大学・市民と協働できるコンソーシアムを立ち上げて、積極的な取組みを展開します。

●H23年度以降の展開

※低炭素・省エネルギーシステムの構築

ごみの焼却から得られる熱エネルギーと自然エネルギーを利用した自立・自律した次世代充電システムの構築と新たな環境事業の創出など

※自然環境・生物多様性活動との連携

生きた里山活動との連携による環境価値の向上とバイオマスエネルギーの活用など

※次世代充電システムを支える3Rの徹底した実践によるゼロエミッションの実現化

※地域の介護・福祉

次世代充電システムを活用した、超高齢化社会ツールの展開と事業創出

※環境未来型社会の推進に向けた情報発信

